

# 豊川市議会傍聴記

④

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

豊川市議会は議長が議長に入り、議長席に座るのを見計らって、職員が手で鐘を3度鳴らし、議会が始まる。

6月定例会では14人が7日からの一般質問に登壇した。

## ■市営住宅のあり方

「住宅は幸せを育むメインステージです」と質問を始めた早川喬俊氏(とよかわ未来)。公共施設の老朽化が進む中で、市営住宅のあり方を取り上げた。

都市対策監は同居親族要件が必要な3DK中心に建設してきた市営住宅が単身高齢者や単身障害者が増える中で、入居

製作所跡地やスズキ豊川工場跡地を核とした八幡地区のまちづくりについて質問。

竹本副市長は「日立やスズキの撤退を新たなまちづくりのチャンスと捉え、これを起爆剤として、地域全体の活性化につなげる。そのために用途変

更が必要」と強調した。

また、市当局は4月にイオンモールから乗り入れ口の位置や交通導線の考え方を示した資料を受け取ったことを明かした。

八幡地区のまちづくり

星川博文氏(同)は、用途地域を変更して取り組む日立

量に関する課題の検討をしているとし

また、地元商業者などへのイオンからの説明会は、市商工会議所を通して行うことや、日立跡地では土壌汚染調査の結果をまとめている段階であることなどが示された。

これには多くの地

元住民が傍聴した。

■豊川洪水対策

中村浩之氏(同)は台風シーズン前に豊川の洪水対策について質問した。

建設部長は15年9月の鬼怒川下流での大水害を機に「水防意識社会再構築」の具体化として「豊川水防災サミット」が開かれ、ハード・

ソフト両面から被害の最小化を図る取り組みを計画的に推進しようとしていることを示した。

中村氏は特に「逃げ遅れゼロ」に向けた取り組みや豊川改修工事、6カ所ある排水機場などについて質(ただ)した。

■がん教育

井川氏はがんの問題の取り組みの現状をなぞっているだけで、豊川市の取り組みに問題点があるの

「がん対策基本法」を中心にごん問題を総力で取り組んできた公明党の地方議員としてはいかなるものか。また3月議会に続いて3人の同会派からは登壇者は井川氏のみ。同党OB議員として恥ずかし

がんと診断について取り上げたのは井川郁恵氏(公明)。

井川氏はがんによる死亡状況や罹患(りかん)状況、がん患者の生存率、がん検診の受けやすい体制などについて質問し、がん教育については学校保健計画の中に位置づけ、中学2年生を中心に「や

さしいがんの知識」などの教材で取り組んでいることなどが教育長から示された。

井川氏はがんの問題の取り組みの現状をなぞっているだけで、豊川市の取り組みに問題点があるの

「がん対策基本法」を中心にごん問題を総力で取り組んできた公明党の地方議員としてはいかなるものか。また3月議会に続いて3人の同会派からは登壇者は井川氏のみ。同党OB議員として恥ずかし

い限り。

■空き家対策

1069棟を超える市内の空き家について質問したのは平松八郎氏(とよかわ未来)。

平松氏の質問に答えて都市計画監が空き家所有者のアンケート結果などについて答弁したが、シルバー人材センターと連携しての空き家の適正管理への取り組み、危険な空き家への対策、ましてや空家バンクをまちづくりの活性化に結びつけるような議論は薄っぺらなものになっていた。

空き家の適正管理のために現場で何がどのように行われているかの現場検証がなされないまま質問が並べられるからだ。

# 企業の撤退はまちづくりのチャンス

だが、難しい問題である。今回も、早川氏の後援会が多く傍聴に来られていたが、議会と住民の関係を示すいい光景だった。

## ■八幡地区のまちづくり

星川博文氏(同)は、用途地域を変更して取り組む日立

量に関する課題の検討をしているとし

また、地元商業者などへのイオンからの説明会は、市商工会議所を通して行うことや、日立跡地では土壌汚染調査の結果をまとめている段階であることなどが示された。

「がん対策基本法」を中心にごん問題を総力で取り組んできた公明党の地方議員としてはいかなるものか。また3月議会に続いて3人の同会派からは登壇者は井川氏のみ。同党OB議員として恥ずかし

い限り。

■空き家対策